

授業の明日に向けて

学校教育・伴野昌弘

1. 授業の概要と工夫

本授業は、教育学部の2回生を対象とした教職専門科目(必修)である。85名の受講生の殆どの者は、3回生或いは4回生で教育実習を行うことになっている。それ故、シラバスの授業目的に示したように本授業は、原理的、実践的かつ教師論的内容も視野に入れ、本年度も次のような二部構成になっている。即ち、前半部(11回)は、担当者(筆者)による基礎的・原理的な講義であり、後半部(4回)は、二人の実地非常勤講師(亀井壽一先生・亀岡マリ子先生)による実践的な講義である。さて、前半部の担当者による講義においては、本年もシラバス(より充実した内容に一部改訂した。)に示した授業目的「道徳とは何か、道徳性の発達や道徳教育の理論・歴史、道徳教育の方法論について学び、道徳指導の実践力を身に付ける。」が達成されるよう各回の授業項目に則して講義した。以下、五つの到達目標を記し、授業を概観しよう。

到達目標(1)「人間にとっての道徳の必要性を理解し、道徳及び道徳教育とは何かについて説明できる。」これは授業項目の第1回から第3回に対応し、道徳への興味付けのため、最も工夫した箇所である。特にオリエンテーションで本年も現代詩「ゆうやけ」を鑑賞させた。そして意見を聞き、レポートも課し、各人を道徳的感性に目覚めさせ、「善意志」とは何かを主体的に考えさせたが、興味を惹いた。到達目標(2)「道徳性の発達に関する諸理論を学び、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第4回と第5回に対応し、コールバーグの説を中心に考えた。到達目標(3)「道徳教育の諸理論と歴史を学び、各理論の道徳観、指導過程を説明し、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第6回と第7回に対応し、本授業の中核である。工夫として、道

徳教育の重要性理解のため、過去に受けた道徳授業を先ず反省させた。そして、小中学校の教師であれば、教科を超えて誰しも道徳の専門家であるという事実を理解させた。到達目標(4)「現行の学習指導要領及び解説道徳編等から道徳教育の目的・内容・方法について学び、それらを説明することができる。」これは授業項目の第8回から第10回に対応し、道徳に関わる教師の実践力、基礎教養の醸成に重要である。工夫としては絵本を含め多様な副読本を紹介しその意味を理解させた。時間的に十分ではなかったが出来る限り目標達成できるよう努めた。到達目標(5)「上記の学習を通じて、暫定的な自分なりの道徳教育観を持ち、道徳の授業をデザインし、指導案を作成することができる。」これは授業項目の主に第11回から第14回に対応し、実践的で重要な一面、現段階では到達困難な目標かも知れない。しかし、非常勤の二人の先生方の温かい御協力のお陰で目標達成に専念でき、心から感謝している。

2. 学生たちの反応

授業で印象的であった点、気付いた点を自由に記してもらったが、代表的なものを次に記そう。第一回目の詩の紹介が新鮮で、道徳の奥深さを知り、授業に引き込まれた。(多数) 教師になるためには是非知るべきことを学んだ気がした。名前を呼ぶ出席の取り方が新鮮で、何だか嬉しかった。非常勤の先生を含めて、教育内容、方法に毎回工夫された感動的授業だった。

3. 総括と反省

二人の実地非常勤講師の御協力で、授業全般は学生にとって概ね満足のゆくものであった。しかし、担当者として次の点は反省しておきたい。即ち、モラルジレンマの授業を取り入れ、道徳指導案の書き方の徹底を計ること、グループ発表を通して、双方向の授業を工夫すること、等である。